

第3部 〈資料編〉

1. 人口減少対策に関するアンケート調査 報告書

1. 調査概要

富良野市の若い世代（18～39歳）の生活や子育てに対する意識を把握するためアンケート調査を行った。

(1) 調査対象

2015年（平成27年）4月10日現在の住民基本台帳に登録されている18歳から39歳の方の中から無作為に抽出した1,200人

(2) 標本数

1,200件

(3) 調査方法

郵送配布・郵送回収

(4) 調査期間

2015年（平成27年）4月20日～5月1日

(5) 回収状況

発送数	回収数	回収率
1,200件	363件	30.3%

【集計・表記方法に関する留意事項】

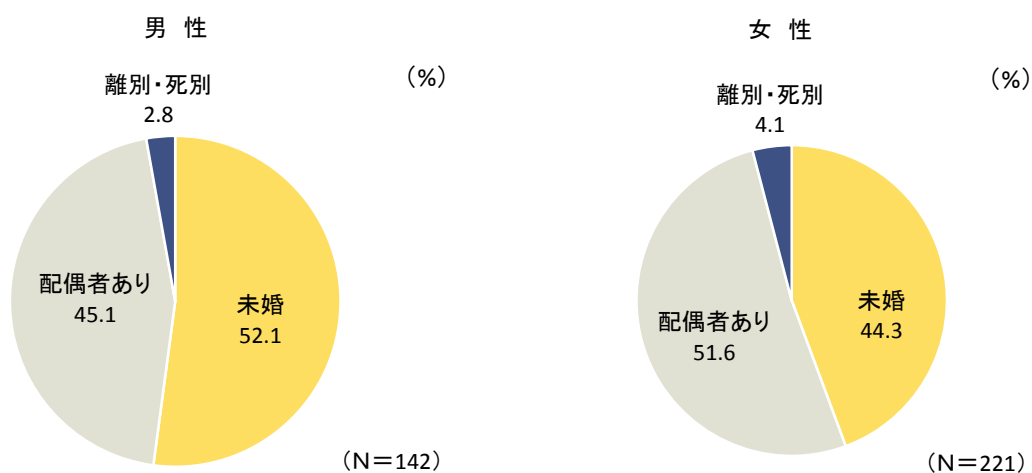
- 集計結果は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを百分率(%)で表示している。そのため、構成比の和が100.0%にならないことがある。
- 本文やグラフ中の選択肢は、調査票の言葉を短縮しているものがある。

2. 調査結果

(1) 回答者の属性

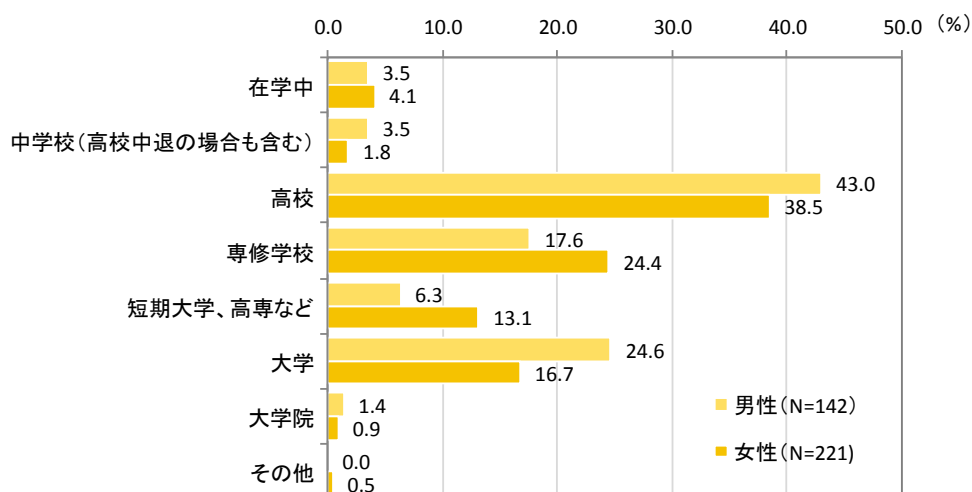
回答者の有配偶者の有無についてみると、男性の45.1%、女性の51.6%が配偶者ありと回答している。

図 1-1 有配偶の有無



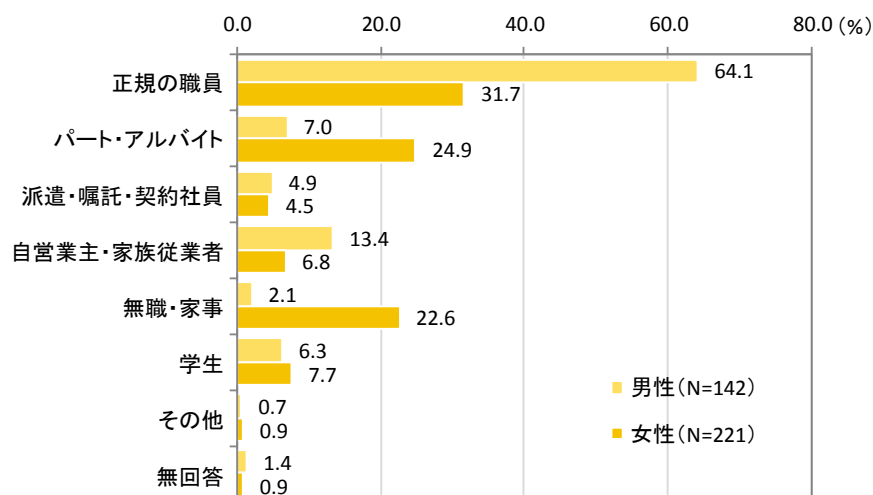
最終学歴については、高校と回答した人が男性では43.0%、女性では38.5%となっている。最終学歴は大学と回答した人は男性24.6%、女性16.7%であり、現在の大学進学率48.1%を加味すると、大学進学したの人のうちUターンできているのは一部であるといえる。

図 1-2 最終学歴



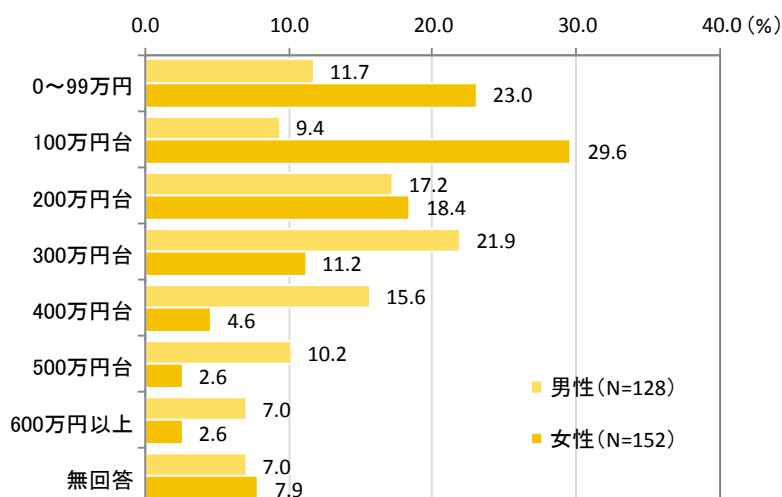
現在の勤務状況をみると、男性では正規の職員が 64.1%、自営業主・家族従業者が 13.4%であり、合わせると 77.5%となっている。一方、女性では正規の職員が 31.7%である。次いで、パート・アルバイトが 24.9%、無職・家事が 22.6%となっている。

図 1-3 現在の勤務状況



年収を得ている人に平成 26 年の年収をたずねたところ、男性では 200 万円台～400 万円台に広く分布しているのに対して、女性は 0～99 万円、100 万円台～200 万円台に分布が広がっており、男女間の職業の違い、収入の違いがみられる。

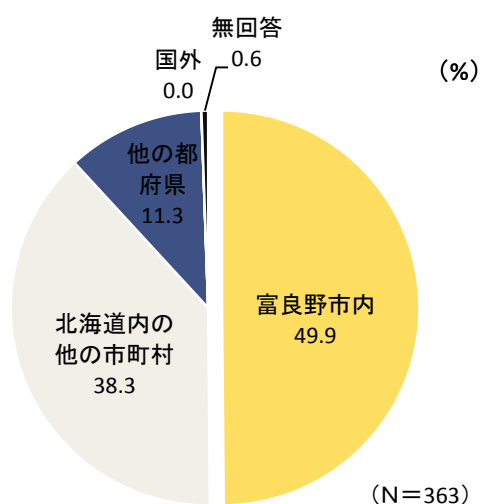
図 1-4 昨年の年収



(2) 富良野市に住み続けたいか

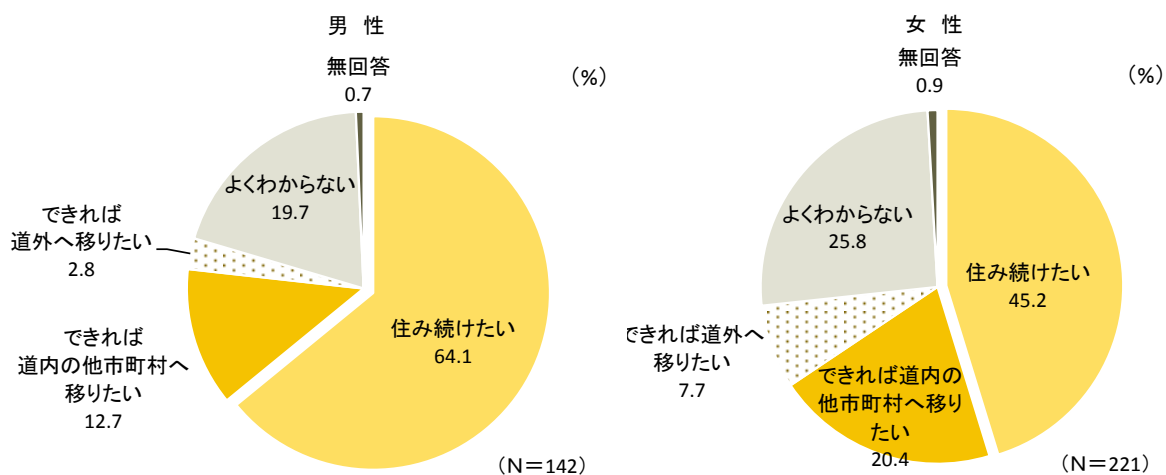
回答者のうち 49.9%は富良野市内で生まれており、富良野市生まれ、富良野市育ちという方が比較的に多いといえる。

図 1-5 生まれた場所



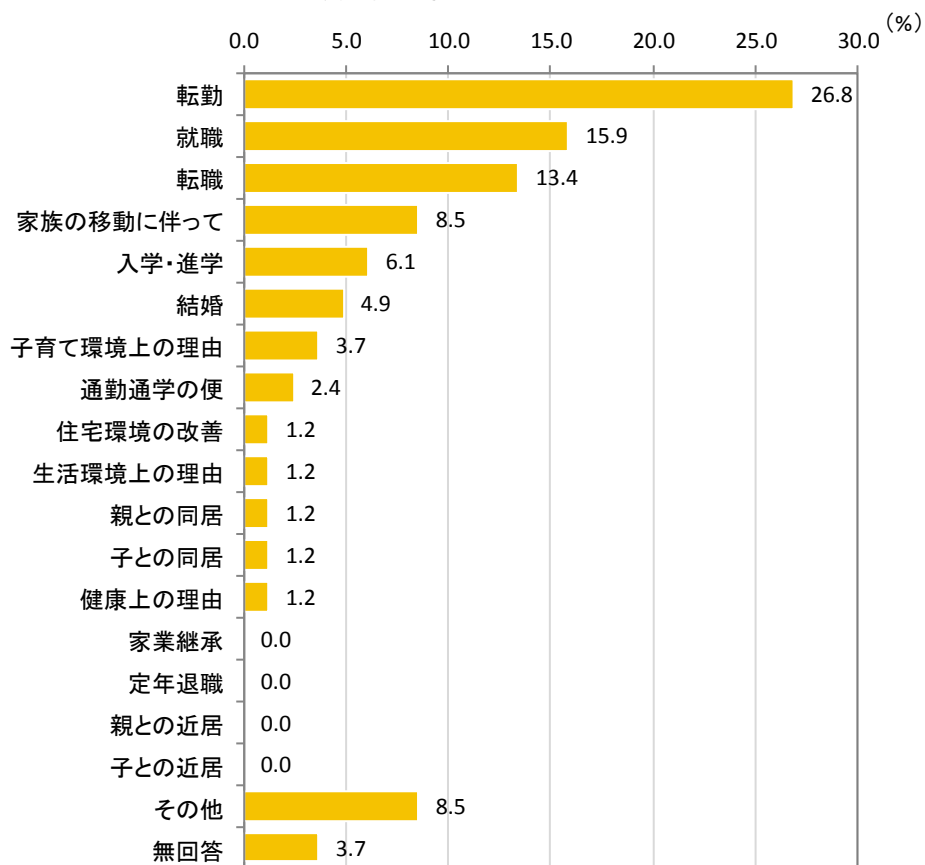
富良野市に住み続けたいかとたずねたところ、男性では 64.1%、女性では 45.2%が住み続けたいと回答している。男性と比べて、女性で他の地域に移り住みたいという意向が高く、将来女性の定住を検討していく上で重点的に解決を図る点といえる。

図 1-6 富良野市に住み続けたいか



転出する場合に考えられる理由としては、転勤(26.8%)、就職(15.9%)、転職(13.4%)であり、「雇用」が社会移動の中心であることがはっきりとしている。

図 1-7 転出する場合に考えられる理由

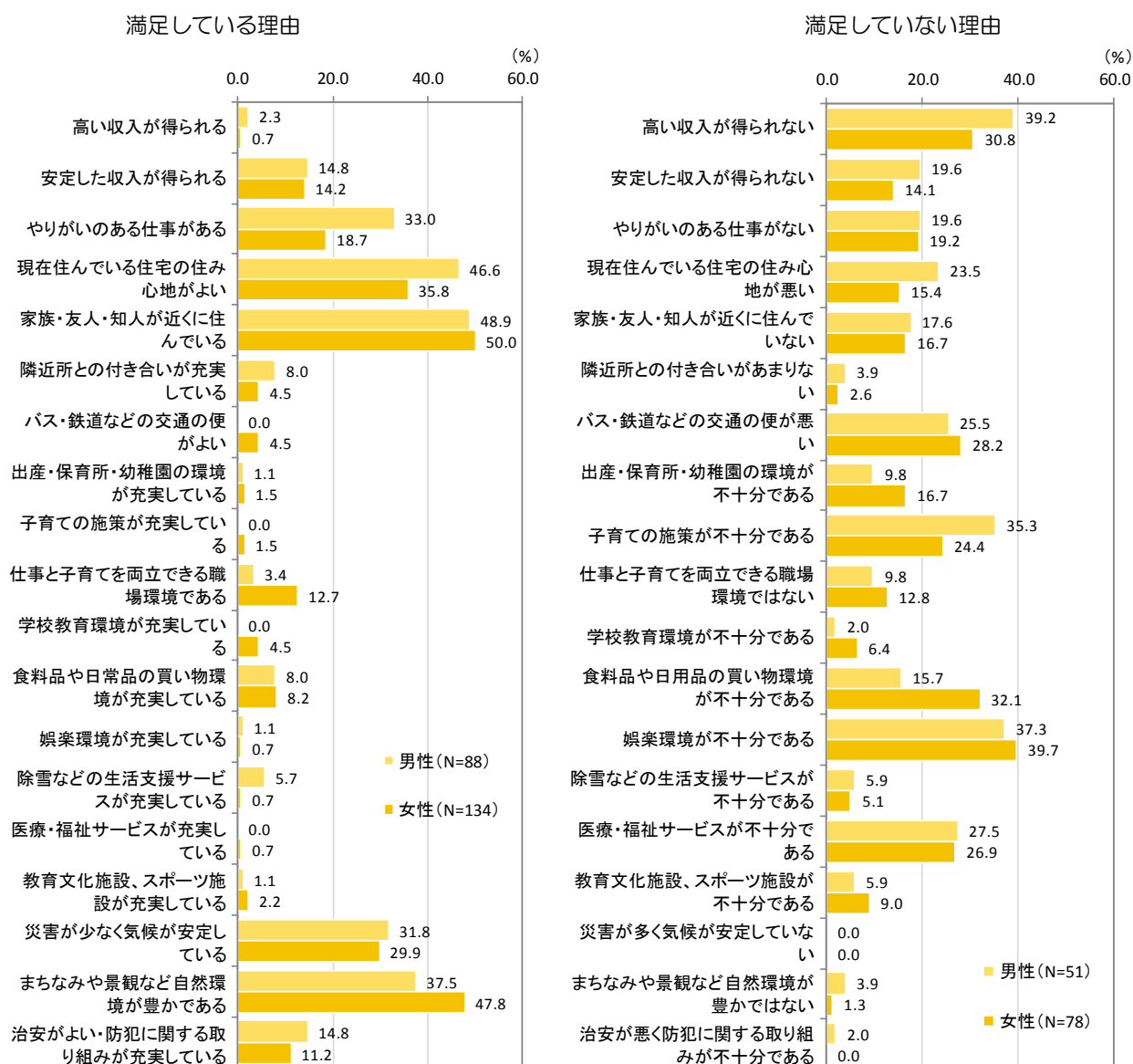


(N=82)

富良野市に住んで満足している理由としては、「家族・友人・知人が近くに住んでいる」が最も高く、次いで「現在住んでいる住宅の住み心地がよい」「まちなみや景観など自然環境が豊かである」などが続いている。

一方、満足していない理由としては、「娯楽環境が不十分である」が最も高く、次いで「高い収入が得られない」「医療・福祉サービスが不十分である」「子育ての施策が不十分である」などがあげられている。

図 1-8 満足している理由、満足していない理由



(3) 人口減少に対する意識

人口減少に対して不安を持っている方（非常に不安+まあまあ不安）は、全体の57.3%である。特に、不安の中身としては「地域から人がいなくなるという漠然とした不安」が35.1%、「産婦人科、保育園、幼稚園が撤退するなど子育て環境が悪くなるという不安」と「社会保障や年金に対する不安」が33.7%となっており、安定した社会システムが崩れるのではないかということに対する不安が高くなっている。

図 1-9 人口減少が進むことへの将来の不安

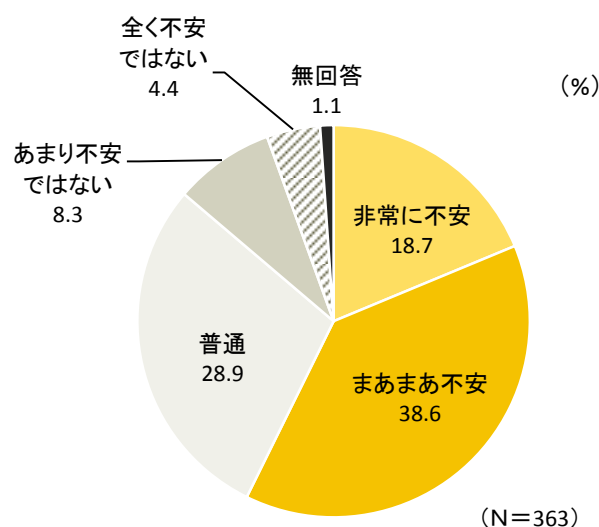
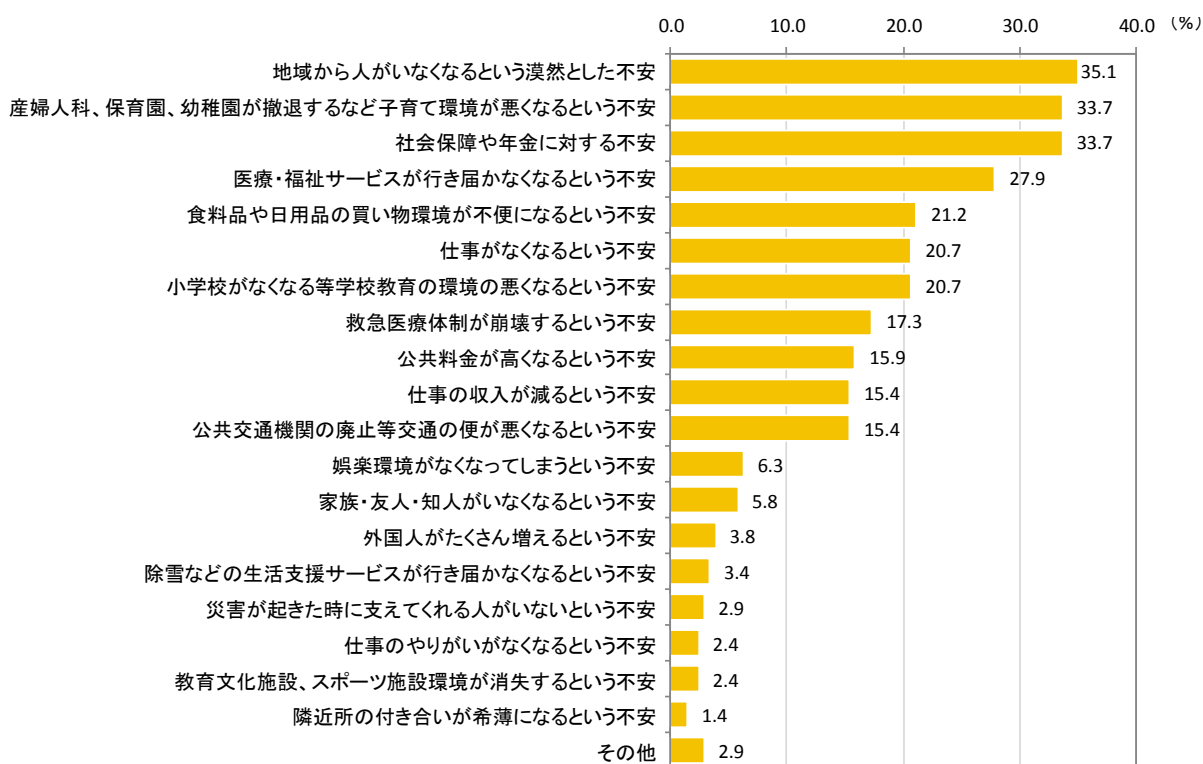


図 1-10 人口減少が進むことへの将来の不安



(4) 自由記入

人口減少対策において富良野市が優先的に取り組むべき事項にはどのようなものがあるかたずねた結果は以下のとおりであり、「出産・子育て」「生活」「雇用」などに対する回答が多くなっている。

図 1-11 人口減少対策として富良野市で優先的に取り組むべき事項

(複数回答)

主な分野	件数	%
出産・子育て	105	44.7%
生活	50	21.3%
雇用	45	19.1%
若者	34	14.5%
移住・定住	30	12.8%
行政	10	4.3%
医療	10	4.3%
農業	8	3.4%
観光	7	3.0%
教育	7	3.0%
高齢者	3	1.3%
その他	35	14.9%
全体(回答数)	235	

主な意見は以下のとおり。

① 出産・子育て

- 子育て世代が子供を産み育てたい、また育てられると自信のもてる環境づくり。例えば、妊婦健診は無料診療とか出産に伴う入院費用の無料化。また幼稚園入園前までは紙おむつのクーポンを配布するなど。地域医療においても産婦人科、小児科はまだ十分ではないし、皮膚科や眼科の開業医院があってほしい。子供が自由に楽しく遊べる施設がないので作ってもらいたい(冬も)。まずは子育て世代が安心して子供を産み育てていく環境が整っていないと移住者も増加しないと思う。(女性、35～39歳)
- 子どもを育てていく上で十分な収入が得られないため共働きができる環境を望んでいます。保育園での待機児童がいると知ってしまうと子供をたくさん授かりたいけど十分に育児していくには難しい。産みたくても産めない。(女性、20～24歳)
- 金銭的補助をもっとすべき。産休、育休を増やす。パート等でも出産のためいったん仕事をやめて、時期がきたら再就職を探すのではなく、正社員でなくても産休や育休に近い制度があってもいいと思う。また、仕事復帰するにあたり、託児所がある所が少ないので、子どもがいて仕事を探すには職場に限られる。保育園は金額が託児所よりも多分高いと思うので、出来れば託児所がある所がいいなと思うので。(女性、20～24歳)

- 子育てがしやすくすべきである。子供はやはり病気をしやすいので、病院でお金の負担が減ると助かる。子供をあそばせられる施設があると親同士のコミュニケーションがはかれて、きょうだいを！！という話もあり、子供が増える！なんてこともあるかも？(女性、25~29歳)
- 紙おむつや衛生用品の（収集日、増やしていただけますか？）ごみ袋を購入するための補助券（補助が必要） ・小学生まで医療費無料。一番医療にお金がかかる年代なので。 ・子どもの生活用品やおもちゃなどを買えるお店が必要。隣の大きな市まで買い出しに行かなくてはならない。 ・雨の日にでも遊べる（午前中にも遊べる）屋内のあそぶ場所をつくって欲しい。 ・富良野に引っ越してきて、“子育てに冷たい市”という印象が強いです。安心して「ここだったら育てたい」と思える街づくりを考えていただきたいと思います。(女性、35~39歳)
- 富良野市は離婚率の高い市にもかかわらず母子・父子家庭における高卒以降の進学希望者への支援が行き届いていない。例えば、経済的諸事情により苦しくも高卒後継続して進学できない者に対する教育的支援、経済的支援があまりにもない。これでは日本国民が保有すべき教育を受ける権利が弱者には無い事になる。例え苦学のすえ進学を果たしたとしても莫大な返済を抱え就職先もろくになく福祉に偏りのある頼りにならないこの市に戻ってくる気にさえならない。母子・父子家庭において保護者が病弱である場合その子供は進学を断念すべきなのであろうか？ただ絶望感を抱え生きるより他にない現実を理解していただきたい。(女性、18~19歳)

②生活

- 有名な観光地であり観光に力を入れるのも良いと思いますが、地域住民のためにも力を入れてほしい。地域住民がもっと住みやすく、商業施設をもっと充実させてくれたら、観光客以外でももっと富良野に住みたいという人が増えると思います。(女性、30~34歳)
- 公園や図書館が充実してくれたいと思う。そういったものに魅力を感じて住みたいと思うのでもう少し考えて住みたいと思うものを作ってほしい。たとえば麓郷街道で何十億もかけて道を少し作るなら自然公園とか作ってほしい。(富良野の魅力は自然なのに) 地元の人はおかしいと思っています。(女性、35~39歳)
- 買い物が不便。お店が少ないから値段の競争もなく高めだし、品数も少ないので結局、市街へ買い物に行ってしまう。飲食店も観光客向けの値段で、市民がちょっと外食したい時には、家族が行くには高すぎる。子供がのびのびと遊べる広い公園や施設（無料）があるといい。せっかくステキな「富良野」という街なのに観光では来るが、住むと不便…というのはもったいないです。人口が増えることを願っています。(女性、30~34歳)
- 交通の便は良いのに時間が合っていない(札幌最終21時発なので趣味等では早すぎ)のでそっちに住むのも良いなと思っている人が割といます。(女性、30~34歳)

- 賃貸等住宅の家賃が平均的に高いので住む場所の選択肢が限られてしまう。特別大きな市ではないが物価が高い。(燃料等) (男性、25～29 歳)

③雇用

- 以前のようにドラマの影響で移住してくる人ももう少ないと思うので、若者に魅力ある街づくり(仕事面も)が大切だと思います。子育て支援は充実していると実感しますが、復職出来そうな仕事に限られるのでもう少し選択肢が欲しいところです。(女性、35～39 歳)
- 私が富良野に住んだのは就職先だったからという理由が大きいですが、今、富良野に育った子供達が富良野に住み続けたいと思うのであれば、やはり就職先があるかどうかだと思います。どんなに住みたいと思う町でも就職先がなければ他の町へ行かざるをえないからです。(男性、35～39 歳)
- 賃金が安い。道外から来る人には生活レベルが下がるので生活が苦しくなると思う。通年雇用をしてくれる所が少ないと思う。(女性、30～34 歳)

④若者

- 富良野市は物件の数が少なく、そのため家賃が高い場合が多く、1人暮らしを始めたい若者には厳しいと思う。だから物件(ワンルーム)など1人暮らしを始めやすい環境づくりが必要だと思う。(女性、18～19 歳)
- 若い人を取り込む(増やす)為に子育て支援など充実させるべき。ショッピングモール等が無く、服や雑貨等は旭川まで行かなくてはならず大変不便。せめてユニクロくらい作って欲しい。若い人にとってそういう不便さが移住したいという気持ちにならない。(女性、30～34 歳)
- 若い人が働きたいと思えるような職場が限りなく少ないこと。(若い人向けのアパレルショップ等が少ない)また、富良野に友人がいたとしても娯楽施設がほとんどなく遊べる場所が少ないこと。地元で遊べる場所が少ないがために札幌や旭川へ行きます。興味が持てるような仕事、物が売っていないためにより都会を求めます。高齢化のため福祉サービスを充実させたり、観光のための施設(マルシェ等)を充実させるのも良いですが、若い人を定着させるためには、若い人が求めるものを用意し、作っていくことも大事なのではないでしょうか?そして、子供を育てていくにあたって中富良野のように出産祝い金や若い人が移住、家族が移住するための援助等ももっと充実させてくれたら良いと思います。富良野は家賃が高すぎる。収入と家賃の支出があっていないように感じます。特に若い子持ちの世帯では暮らしていくのがやっとです。(女性、20～24 歳)
- 若い人達が感心をもつような事があまりないから色々なイベントなどをする。(男性、35～39 歳)

⑤移住・定住

- 他県から移住してきた人を使ってPRする。(本を出版したり情熱大陸のような番組を全国で放送する)(女性、30~34歳)
- 富良野市は全国的に知名度が高いので、他の都府県からの移住者の受け入れを積極的に行うべきだと思います。(男性、35~39歳)
- 移住者に優しい環境→賃貸が少ない。高い。借りにくい(不動産会社の対応)。市の移住支援サービスもあるが、短期入所住宅や公営住宅の募集定員も少ない。とても良い自然環境で移住者の希望も多いのに閉鎖的でもったいないと思います。いろいろ改善すれば必ず人口増加できると思います!(女性、30~34歳)

⑥行政

- 人口減少がいけないと言う事が本当にわるいのか、はっきりわかっていない。どの層の人が市外に出ているのか、どんな職種がふえてほしいのか、市としての目的みたいなものが見えてこない。(男性、30~34歳)
- 現在住んでいる若年層や子ども達への流出阻止のアプローチと移住者拡大のアプローチを全く別物と考えて対策を検討していただきたい。企画振興課だけではなく、全部署全セクションで各政策とこの問題を結びつけて業務を見直すことが最優先ではないでしょうか。そうすればどれか1つを優先的にしなくてはならない事態を防ぐことができるのでは?どれも同時進行が理想。(男性、35~39歳)
- 富良野市がなにをしたいのか?どうするのか?わかっていない市民も多いし、なにせ情報が少ない!イベントが終わってから「そんなイベントがあったんだ!」と言う人もいます。なにせ情報が少ないと興味がなくなるし、つまらなくなります。優先的に取り組むことは、市民からの注目をあつめ、信頼を得ること?(男性、30~34歳)

⑦医療

- 総合病院(協病)のレベルアップ。協病は急外もまともにみられない。(女性、35~39歳)
- 健康保険を払っている人、全てに年齢制限関係なく、健康診断を受けられる様にしてほしい。31歳、32歳からでは遅い!富良野市と中富良野町の合併!(女性、30~34歳)

⑧農業

- 第一次産業を守っていかないと富良野は衰退していく一方だと思う。観光産業も第一次産業があってこそ。離農をくい止める対策を。(女性、30~34歳)
- 農業者においても後継者のパートナー探しに関わってくださるのはよいですが、そのパートナーとして富良野に移住してきた人に対するアフターケアがもっと必要だと思います。移住してきたパートナーがその家、その地域に定着できるように相談ののってくれる人が必要だと思います。配偶者が良い人でもその義家族、その地域になじめず離婚という人はたくさんいます。それを減らすためにもマッチングして終わりではなく、フォローもしてほしいと思います。また、農業の事業継承に関しましても、家族経営協定の締結を促進しているのでしたら、定期的に農家を訪問し、協定内容の確認など行うようにしてください。事業継承予定のはずの後継者の元に嫁に来て、一向に継承の話が出ないのでは、農業後継者の所に覚悟を決めて嫁に来た人達をだましているのと同じになります。このようなケースが多いようではせっかく移住して嫁に来た人達をだましているのと同じになります。このようなケースが多い様ではせっかく移住して嫁に来た人達もすぐに出ていってしまいます。私がまさにそのケースですが、夫の家からの手当は月8万円です。事業継承の話は義父にもみ消されています。このままでは結婚しても子供を産むところの話ではないのです。(女性、35~39歳)

⑨観光

- 富良野でしかできないことに力を入れる(具体的にはむずかしいが南富良野町はカーニーに力を入れたり、常呂のカーリングとか)(男性、30~34歳)
- 演劇工場があるのに観光客につながっていない。人を呼ぶには景観だけではなく、特色あるものをアピールする必要があります。今、演劇工場と富良野高校がタッグを組んで表現の授業をしています。演劇をやりたい人は一定数おられますので、三笠高校みたいに宣伝して、寮完備にすれば若い人、興味のある人は来ると思います。(女性、35~39歳)
- 観光にもっと力を入れて他の国、地域の人が入りやすいと思う街にする。(女性、30~34歳)

⑩教育

- 学校の統合による設備、部活の充実。他校との交流による社会経験をさせること。地縁、血縁は強い。昔ながらのコミュニティだが一般的常識のなさ、社会性の低さが子供にも家庭にも見られる。(女性、30~34歳)
- 高校より上の進学先が無いから実家に居たくても居られない。大学や専門学校があれば良いのに。(女性、20~24歳)
- 介護施設を作るならそこで働く資格をとれる学校を地元で作る努力をするべきだと思う。(女性、20~24歳)

⑪高齢者

- お年寄りの方がゆっくりできる場所や生活に必要なものが揃う場所を増やすと、「老後も安心」または現在年金暮らしの人も「便利だし住みやすい、安心」して過ごせるのかと思います。やっぱりお年寄りの方が住みやすい場所だと長く住み続けたい町になる気がします。富良野の自然も残しつつ、お年寄りの方にとって住みやすく便利な場所になると、もっといいかと思います。(女性、18～19歳)
- 高齢者が安心して暮らせる医療体制と介護サービスの充実(女性、35～39歳)

⑫その他

- 収入を増加させ余裕のある生活ができれば人は出ていかない。一時的な観光に力を入れすぎている。新規参入を歓迎するのは良いが、今実際に地元で働いている人のために出来る施策が必要だと思う。(男性、30～34歳)
- 外国人が多くいますが定住しないのはなぜなのかと思います。富良野は良い所だけど、富良野人にしか良い所ではないのかも。(女性、30～34歳)
- 具体的な案はありませんが、もっと活性化させるため、女性がどんどん企画やそれらを実現でき、輝ける場を増やしていくと良いと思う。男性主導<女性主導の社会が今後、必ずやってくると思うから。(女性、35～39歳)

2. 庁内女性職員ワーキングチーム 報告書

人口減少対策を考える

女性にやさしい まちづくりのための
5つの視点と17の提言



芳澤 侑菜 副政務 松原 真彩 市民年金係 川崎 弘美 交通生活係 斎藤 恵美子 医療課係 奥田 由紀 保健推進係 成田 恵美子 中央保育所 学務係 安彦 みつ美 学務係 佐藤 清理 給食センター

市内女性職員ワーキングチーム

1

市内女性職員ワーキングチームメンバー

	所 属	氏 名	備 考
1	総務部財政課財政係	芳澤 侑菜	
2	総務部市民環境課市民年金係	松原 真彩	
3	総務部市民環境課交通生活係	川崎 弘美	座 長
4	保健福祉部保健医療課医療国保係	斎藤 恵美子	
5	保健福祉部保健医療課保健推進係	奥田 由紀	
6	保健福祉部子ども未来課中央保育所	成田 恵美子	
7	教育委員会学校教育課学務係	安彦 みつ美	
8	広域連合学校給食センター	佐藤 清理	

2

市内女性職員ワーキングチーム協議経過

月 日	会 議 名	会 議 内 容
12月18日	第1回会議	富良野市の人口減少の現状について
1月15日	第2回会議	人口減少対策に向けた「政策の木」づくり
2月 5日	第3回会議	現状の課題解決に向けた提言に関する議論No1
2月17日	第4回会議	現状の課題解決に向けた提言に関する議論No2
3月 6日	第5回会議	政策提言の取りまとめ
3月20日	第6回会議	政策提言内容の確認

3

北海道新聞ふらの版 報道内容

平成26年12月10日 北海道新聞

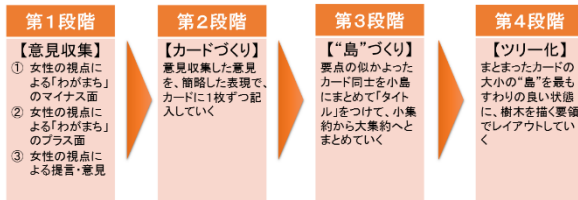


平成27年1月19日 北海道新聞



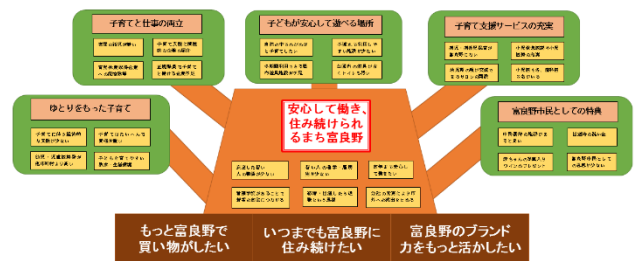
4

意見の積み上げによる政策の木づくり



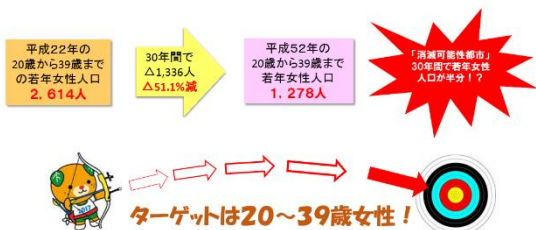
5

意見の積み上げによる政策の木



6

人口減少対策を考えるうえでのターゲット！



7

女性にやさしいまちづくりのための5つの視点

- その① 子ども・子育て支援を充実する
- その② 親子が安心して遊べる場所をつくる
- その③ 子育てと仕事の両立を図る
- その④ 富良野の強みを活かした雇用の場をつくる
- その⑤ 子どもたちに誇れるまちをつくる

8

その① 子ども・子育て支援を充実する

問題・課題

- 乳幼児に関する医療費が他自治体と比較して高い
- 子育てには、お金がかかり経済的支援が必要である
- 子育て世代には、賃貸住宅の家賃が高い
- 子育て世代が持ち家を取得するための助成が必要
- 医療機関の課題、医師不足

対策・提言

- 就学前乳幼児医療費の完全無料化
- 0歳乳児オムツ購入費の助成
- 3歳未満児衛生用品ごみ袋の無料配布
- 子育て世帯賃貸住宅家賃補助
- 子育て世帯定住応援促進補助

9

その② 親子が安心して遊べる場所をつくる

問題・課題

- 児童公園のトイレや遊具が古く、安心して遊ばせられない
- 親子がいつでも自由に集える場所が少ない
- 雨天や冬期間に親子が遊べる屋内遊具施設がない

対策・提言

- 子育て世帯の意見を反映した児童公園整備
- 公共施設内キッズスペースの設置
- 旧北の峰ハイツを屋内遊戯施設として整備
- 子育て支援施設の設置に対する補助

10

その③ 子育てと仕事の両立を図る

問題・課題

- 「育児休暇や看護休暇は妻側がとるもの」といった固定観念がある
- 正規社員で子育てしながら働ける職場が少ない
- 子育て支援をしている企業を紹介し、意欲を高める必要がある
- 病児・病後児・夜間保育を充実する必要がある

対策・提言

- ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への積極的支援
- 子育て支援優良企業認定の情報発信
- 男性市職員の10日以上の子育て休暇の義務化
- ファミリーサポートセンターの周知徹底

11

その④ 富良野の強みを活かして雇用の場をつくる

問題・課題

- 若い人の進学先、雇用先が無い
- 勤め先が、市役所、病院、ホテル、保育所などに限られてしまう
- 高校卒業後の進学先は、市立看護専門学校しかない
- 安定して働ける職場が少ない
- 不安定な暮らしの家庭が多い

対策・提言

- Uターン就職希望者交通費等助成
- 6次産業化進出企業の支援

12

その⑤ 子どもたちに誇れるまちをつくる

問題・課題

- 中・高校生は、子育てが大変で責任が重いというネガティブな思いを抱いている
- 子どもたちに富良野に住んでいてよかったと思われることが大切
- 富良野はネームバリューを生かしていない
- 交通弱者にとって不便であり、買い物をするところが少ない
- 奨学金制度の導入等

13

対策・提言

- 乳幼児と中高校生とのふれあい体験
- 出生時の赤ちゃん写真入ワイン&果汁プレゼント
- へそ丸くんLINEスタンプによる情報発信

提言① 就学前乳幼児医療費の完全無料化

【現行の富良野市の制度】

入院施設	診療科目	0～2歳	3～5歳	6～12歳	12～15歳
入院	課税世帯	無料	1割負担	1割負担	3割負担
入院	非課税世帯	無料	無料	無料	3割負担
通院	課税世帯	無料	1割負担	3割負担	3割負担
通院	非課税世帯	無料	無料	3割負担	3割負担

【提言案】

入院施設	診療科目	0～2歳	3～5歳	6～12歳	12～15歳
入院	課税世帯	無料	無料	無料	3割負担
入院	非課税世帯	無料	無料	無料	3割負担
通院	課税世帯	無料	無料	3割負担	3割負担
通院	非課税世帯	無料	無料	3割負担	3割負担

現行医療費1割負担者を無料化した場合、年間**910万円増**

14

提言② 0歳乳児オムツ購入費の助成

- 満1歳になるまでの乳児のいる子育て世帯に対し、オムツ助成券を発行し、子育て世帯の経済的負担を軽減する。
- 見積額: 3,000円/月 × 12ヶ月 × 160人 = **576万円**



子ども用紙オムツ



経済的不安が解消されオムツ交換も楽しく!

15

提言③ 3歳未満児衛生用品ごみ袋の無料配布

- 満2歳までの乳幼児のいる子育て世帯に対し、紙オムツ廃棄用衛生用品ごみ袋を配布し、子育て世帯の経済的負担を軽減する。
- 見積額: 357円/1袋10枚入 × 6ヶ月 × 480人 = **103万円**



16

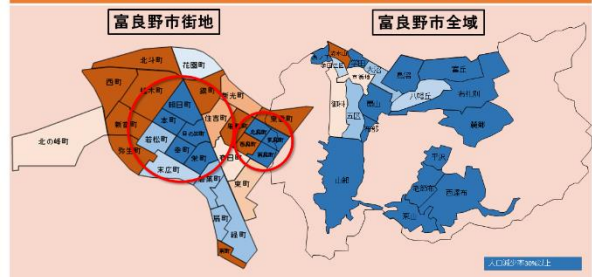
提言④ 子育て世帯賃貸住宅家賃補助

対象となる住宅	昭和60年から平成22年までの25年間で 人口減少率が30%以上の地区 (朝日町・本町・日の出町・幸町・栄町・北麻町・東麻町・南麻町・麓郷・布礼別・山部・東山)にある賃貸住宅
対象となる子育て世帯	就学前 の子どもが同居する世帯で、世帯の収入が市営住宅入居基準に基づき算定される収入月額が21万4千円以下で、市税の滞納がないこと。
補助金の交付額	入居する賃貸住宅の月額家賃の額に、下記の収入区分に応じて補助率を掛けて算定する。 ● 上記に基づく収入月額15万8千円以下 家賃 × 40% ● 上記に基づく収入月額21万4千円以下 家賃 × 30% 月額家賃補助の上限額は2万5千円とし、入居から3年間に限り補助する
補助金の見積額	25,000円/月 × 12ヶ月 × 20世帯 = 600万円/年

17

参照: 滝川市住み替え支援補助

昭和60年から平成22年までの人口増減率



18

提言⑤ 子育て世帯定住応援促進補助

対象者 就学前の子どもが同居する世帯で、現に富良野市に居住している者、及び、居住しようとしている者で、富良野市に10年以上定住することを確約する者

対象となる住宅 新築、またはリフォームによる建築費用が、1,000万円以上で、市内の登録工業者に発注していること。

補助金額

市外転入者	100万円/棟
市内居住者	80万円/棟
=900万円/年	

※確認申請件数：約60件
(平成21～25年度平均)

H27年4月完成予定：新築住宅

19

提言⑥ 子育て世帯の意見を反映した児童公園整備

富良野市の児童公園は、古いイメージがあるため、公園施設長寿命化事業により、遊具施設の更新を予定している児童公園については、**周辺地域の子育て世帯の意見を聴く場**を設けて、遊具の選択・設計をすることで、市民参加の醸成を図る。



保育所入所児童からのアンケート調査により、平成25年度に整備された朝日ヶ丘総合都市公園



平成26年度に遊具の更新が行われた朝日町公園

20

提言⑦ 公共施設内キッズスペースの設置

市役所に訪れる親子が安心して手続きができる環境や、親子がいつでも自由に集える場所として、公共施設内にキッズスペースの確保を図る。

市役所1階 ロビー

現状の市役所窓口では、手続きの際に子どもがロビーを走り回ってしまう。子育てブースを設置することで各種手続きが安心してできる。



概算事業費10万円

ふらっと1階

ふらっと周辺には小さな川もあり子どもの憩いの場となっている。さらに、室内で親子が集える場所を確保し市街地への回遊を図る。



概算事業費20万円

21

マルシェ2アトリウム内にキッズスペースを

親子が自由に気軽に集える場所の提供が求められていることから、東4条街区市街地再開発事業により整備される全天候型多目的交流空間アトリウム内の一角に、可動式キッズスペースをお願いしたい。



完成が近い全天候型多目的交流空間アトリウム



イベント開催時には移設が可能なキッズスペース

22

提言⑧ 旧北の峯ハイツを屋内遊戯施設として整備

雨天時や冬期間に子どもたちが遊ぶ場所が求められていることから、旧北の峯ハイツの一部を屋内遊戯施設として整備し、有効利用を図る。



参考：こども達の“動きたい！”の思いを満たす室内空間 概算事業費2,000万円 [東京都大田区大森みのり幼稚園]

23

提言⑨ 子育て支援施設の設置に対する補助

子育て中の保護者が赤ちゃんと一緒に安心して外出を楽しめるように、市内事業所が、子育て支援施設(調乳・授乳やおむつ替えのための設備)を設置する場合、費用の一部を補助する。

補助対象

- ・施設の設置及び改修に係る工事費
- ・直接必要な備品の購入費(おむつ交換台、授乳チェア、調乳機器、カーテン等)
- ・据え付け工事費及びその関連付帯工事費

補助率 10分の9以内
補助限度額 1施設あたり500千円

補助金の見積額
@500,000円 × 3件(年間) = **150万円**



おむつ交換施設(交換台：約20万円)

参照：八王子市「赤ちゃん・ふらっと」整備事業補助金

24

図書館内に子育て支援スペースの設置（拡充）

現在図書館では、授乳やおむつ替えのために「読みきかせ室」を開放している。利用者がいつでも遠慮なく安心して利用できる子育て支援スペース（調乳・授乳やおむつ替えのための設備）を設置することで、子育て中の保護者が外出しやすい環境をつくる。



市立富良野図書館



自由に安心して利用できる子育て支援スペース

25

提言⑩ ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への積極的支援（札幌市の事例）

● その企業で初めて育児休業を取得した方が出た場合に、雇用の継続など一定の条件を満たした企業に対し、育児休業取得助成金を支給する。

● 見積額 @200,000円×3件（年間）=60万円

支給条件	企業条件
①子の出生前6ヶ月以上継続雇用されていた場合（雇用保険の被保険者として）	①対象となる従業員が市内で勤務している企業
②3ヶ月以上休業した場合	②常勤雇用の従業員が5人以上の企業
③職場復帰後、1ヶ月以上継続して雇用された場合	③就業規則に「育児休業」の定めがある企業
	④雇用保険の適用事業の企業
	⑤市税の未納及び過去に重大な法令違反がない企業
	⑥1企業1回限り

26

提言⑪ 子育て支援優良企業認定による情報発信

● 子育てしやすい職場環境づくりを積極的に取り組み、成果を上げている事業所を市が認定し、広く市民に情報発信することで、子育てと仕事の両立に対する意識啓発を図る。

認定基準（案）
妊娠中及び出産後の従業員への配慮 (1) 健康管理のための制度の周知及び相談体制の整備等 (2) 出産時における休暇取得の促進 (3) 育児休業制度の整備・取得促進 (4) 育児休業取得後の職場復帰しやすい環境の整備 (5) 子育てのための時間を確保できるようにする措置 等
雇用環境の整備 (1) 残業・休日出勤の削減 (2) 年次有給休暇の取得促進 (3) 職務遂行の意識及び固定的な性別役割分担意識の是正 等
認定企業のメリット (1) 市HP等での公表・認定表彰の顕彰による周知 (2) 認定マークを名刺や印刷物に表示できる (3) 市の入れ・契約において優遇措置

27

子育て支援優良企業認定制度

埼玉県熊谷市の事例

企業名	業種	主な取り組み
埼玉信用金庫	金融	子どもが小学就学前になるまでの育児短時間勤務制度やノー残業デーの実施。年4回表彰の社内報に男性を主とした制度利用者の体験談を掲載することにより、制度を利用しやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
精谷製菓	造作	育児休業法が定める休業期間を上回る休暇制度の実施。妊娠中や育児休業中、復帰後における情報提供や相談窓口の設置など、継続的な支援体制が整えられている。また、研修を通じて事業所での意識啓発など、子育てと仕事の両立のための幅広い取り組みや、専業主婦からの就業体験が受け入れられ、次世代育風のための取り組みも積極的に行っている。
万有製菓株式会社	製造	子どもが小学就学前になるまでの育児短時間勤務制度や産後休業（育児）の実施。また毎年には地域交流を主軸とした福祉・社会貢献イベント、工場見学などの取り組みを行い、地域との交流を図っている。

熊谷市ホームページ

28

提言⑫ 男性市職員10日以上育児休業取義務化

- 男性の育児休業取得を積極的に行うことで、仕事と家庭の両立にむけた働き方の見直し等を意識的に取り組むため、男性市職員の10日以上育児休業取得を義務化する。
- 富良野市職員の育児休業取得状況

	H22	H23	H24	H25	H26
男性	25%	0%	25%	0%	0%
女性	100%	100%	100%	100%	100%

※育児休業取得率＝育児休業取得人数÷子どもが生まれた職員数

【全国市長の育児休業取得状況】

・茨城県倉賀野市の中山一幸（みずほ）市長（49）は、2010年11月末に第二子誕生に合わせて2週間の育児休業を取得。
 ・大阪府箕面市の倉田哲郎市長（53）は、2010年10月から11月にかけての16日間、次男の誕生に合わせて育児休業を取得。

29

提言⑬ Uターン就職希望者交通費等助成

- 大学や専門学校への進学もしくは就職のために道外に転出した方で、富良野市へ戻って就職したい方（Uターン者）を対象に、就職活動等にかかる交通費等を助成する。
- 見積額 @50,000円×10人（年間）=50万円

支給条件	補助対象
①道外に就職、進学をしている方（Uターン限定）	①年間1回の助成
②就職していた場合は就職後3年以上経過した方	②住居転入後の半額 往復90,000円/2=45,000円
③就職応援フェア参加者	③宿泊費の半額 10,000円/2=5,000円
	④助成額の上限は50,000円



30

提言⑭ 6次産業化進出企業の応援

富良野の強みを活かした雇用の場を確保するため、富良野の安全・安心な農作物を提供する農家レストランや農作物を加工販売するショップを支援する。

たとえば・・・

- 富良野の農作物を提供する農家レストランを開業する場合に限り、市の「店舗等新築改修費補助事業(100万円以上の工事の場合20万円補助)」の拡充を図る。
- ⇒6次産業化の場合、補助率限度額を40万円にアップ
- 富良野の農作物を加工販売しようとするショップに対し、「新事業新製品新技術開発支援事業(補助率3分の2、補助限度額30万円)」の拡充を図る。
- ⇒6次産業化の場合、補助率限度額を60万円にアップ



上富良野町にある農家レストラン

31

提言⑮ 乳幼児と中高生とのふれあい体験

中学生や高校生の間では、「子育ては大変」「責任が重い」「虐待したらどうしよう」といった子育てに対する不安感や先入観があることから、思春期教育や乳幼児とのふれあい体験など、妊娠、出産、子育てを教育プログラムの一環として継続的に取り入れる。



幼稚園児と緑峰高校園芸科の農業体験



乳幼児とのふれあい体験

32

提言⑯ 出生時の赤ちゃん写真入ワイン & 果汁プレゼント

富良野市民で良かったと思えるまちづくりを推進するため、出生時に赤ちゃんの写真入りワイン又は果汁を富良野市からプレゼントする。

- 見積額 3,000円×160人 = **48万円**



プライベートラベル

33

提言⑰ ヘそ丸くんLINEスタンプによる情報発信

- ゆるキャラを使ったLINEスタンプを作成し富良野市をPRする。
 - ⇒ヘそ丸くんLINEスタンプ作成・利用
 - ⇒ヘそ丸くんに興味を持つ
 - ⇒富良野市に興味を持つ

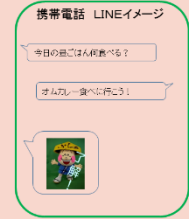


旭川市「あさっぴー」

北斗市「ずーしーほっきー」

【見込まれる直接的効果】
 ・富良野の**認知度アップ**
 ・スタンプ販売収入
 50円×1,000人=50,000円

LINEスタンプは有料で販売することができ、販売価格の1/2が登録者に支払われる仕組みです。



34

5つの視点	17の提言	概算見積額(千円)
子ども・子育て支援を充実する	①就学前乳幼児医療費の完全無料化	9,100
	②0歳乳児オムツ購入費の助成	5,760
	③3歳未満児衛生用品ごみ袋の無料配布	1,030
	④子育て世帯賃貸住宅家賃補助	6,000
	⑤子育て世帯定住応援促進補助	9,000
親子が安心して遊べる場所をつくる	⑥子育て世代の意見を反映した児童公園整備	—
	⑦公共施設内キッズスペースの設置	300
	⑧旧北の峰ハイツを屋内遊戯施設として整備	20,000
	⑨子育て支援施設の設置に対する補助	1,500

35

5つの視点	17の提言	概算見積額(千円)
子育てと仕事の両立を図る	⑩ワーク・ライフ・バランスに取り組み企業への積極的支援	600
	⑪子育て支援優良企業の情報発信	—
富良野の強みを活かした雇用の場をつくる	⑫男性市職員の10日以上の育児休暇の義務化	—
	⑬Uターン就職希望者交通費助成	500
子どもたちに誇れるまちをつくる	⑭6次産業化進出企業の支援	—
	⑮思春期教育や乳幼児と中高生とのふれあい体験	—
	⑯出生時の赤ちゃん写真入りワイン&果汁プレゼント	480
	⑰ヘそ丸くんLINEスタンプによる情報発信	—
合計		54,270

36

3. 庁内中堅若手職員ワーキングチーム 報告書

人口減少対策 『ビジョン』と『戦略』

～未来へのストーリー～



過去



現在



未来

目 次

- 1 『コンセプト』
- 2 『ビジョン』
 - 1-1 課題
 - 1-2 方向性
 - 1-3 目標
- 3 『戦略』
 - 2-1 現状
 - 2-2 視点
 - 2-3 4つの“基本の柱”
 - 2-4 9つの“プロジェクトチーム”
 - 2-5 50の“ストーリー”
- 4 『まとめ』
- 5 『資料』

Re FURANO

1. 課題

Q. なぜ、人口減少は起きているのか？

Q. 何が、人口減少の問題なのか？

1. 課題

**2040年、
富良野市の若者女性の人口が
半分になる**

【日本創生会議・人口問題検討分科会】

2010年の
若者女性人口
2,614人

➔

30年間で
△1,336人
△51.1%減

2040年の
若者女性人口
1,278人

富良野市が将来、
消滅する可能性
がある!？」

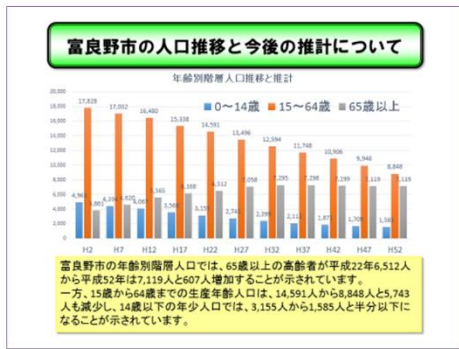
1. 課題

2040年に富良野市の人口は、
18,000人を下回る

国立社会保障・人口問題研究所の推計率拠

	2010年		2040年	
	人数	対2010比	人数	対2010比
総人口	24,258	100	17,553	72
0-14歳人口	3,155	100	1,586	50
15-64歳人口	14,591	100	8,848	61
65歳以上人口	6,512	100	7,119	109
うち75歳以上人口	3,436	100	4,258	124
20-39歳女性人口	2,614	100	1,478	57

1. 課題



7

1. 課題

人口が18,000人を下回ると

- ①生産年齢人口の減
⇒ **産業構造の崩壊**
- ②老年人口の増加
⇒ **医療費負担の増**

8

1. 課題

Q. 深刻な人口減少をストップさせ、富良野市を元気にするために
今から何をすべきか？



- ①富良野市に住む**若者が結婚し、子どもを産み、育てやすい環境をつくる**ためには、
どのような取り組みをすべきか？
- ②富良野市への『**人の流れ**』をつくるためには、
どのような取り組みをすべきか？

9

1. 課題

現状・課題の洗い出し

種別	現状・課題	種別	現状・課題
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て制度が充実していない ・複数の子どもを産める状況づくりが足りない ・保育費が掛かる ・保育費が掛かる ・医療費が掛かる ・一人っ子が多い ・無双子、無三子が少ない ・産内で産む頻度がない 	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村との差別化 ・日本人観光客の減少 ・富良野らしさの追求 ・交流人口を活かす取り組み
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の新卒不足 ・新卒者の雇用対策 ・移住者の雇用対策 ・リターン者の雇用対策 ・正規職員、過半数の雇用がない ・条件が悪い ・給料が悪い 	医療	<ul style="list-style-type: none"> ・医師不足 ・看護師不足 ・医療費の増加
		農業	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化 ・農家戸数の減少 ・若い手不足 ・農村部の過疎化

10

1. 課題

データによる分析・検証①

種別	現状・課題	分析・検証	関連データ・資料
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て制度が充実していない ・複数の子どもを産める状況づくりが足りない ・保育費が掛かる ・保育費が掛かる ・医療費が掛かる ・一人っ子が多い ・無双子、無三子が少ない ・産内で産む頻度がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・出生率低下が顕著な傾向は、国レベルでの動向が顕著である。 ・富良野市の子育てに関する動向を他市町村と比較すると高い。 ・医療費を抑制する取組の必要性がある。 ・子育てに対する認知は、どうしてもお金の掛かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①子育てガイドブック ②児童生活援助課 ③子育て支援課(文科省) ④保育料 ⑤人口動態情報
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の新卒不足 ・新卒者の雇用対策 ・移住者の雇用対策 ・リターン者の雇用対策 ・正規職員、過半数の雇用がない ・条件が悪い ・給料が悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用の確保が少ない。 ・過半数の雇用がない。 ・制度と資金のバランスが取れているのか。 ・Uターン希望者への支援が十分か。 ・雇用、雇われる側への意識改革が必要である。 ・地元企業への資金、労働力等の確保が足りない。(①から④) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥雇用情報誌 ⑦富良野市就業状況 ⑧Uターンからの動向状況 ⑨移住者数 移住情報誌

11

1. 課題

データによる分析・検証②

種別	現状・課題	分析・検証	関連データ・資料
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村との差別化 ・日本人観光客の減少 ・富良野らしさの追求 ・交流人口を活かす取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知度が低い。 ・認知度は高まっている。 ・外国人観光客は増えている。 ・ターゲットによる認知が必要である。 ・富良野市の認知、らしさを活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑩観光経済調査報告書
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・医師不足 ・看護師不足 ・医療費の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師確保は重要である。 ・看護師は増えているが、定数はどうなのか。 ・医療費を抑制するためには、予防が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑪自治体別医師数 富良野市 ⑫二次医療圏別医師数 ⑬医療費(国庫分)
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化 ・農家戸数の減少 ・若い手不足 ・農村部の過疎化 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、農家戸数減少は顕著である。 ・若い手もどう確保していくのか。 ・地域振興局と農林水産省との連携が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑭農業 農村基本計画

12

2. 方向性

出生率が回復し、人口移動が転入と転出で均衡した場合、**2040年に人口20,000人程度を維持**することができる。

- ・年少人口 ⇒ 2010年ベースを維持
- ・生産年齢人口 ⇒ 2010年の7割を確保
- ・20-39歳女性人口 ⇒ 2010年の7割を確保

出生率が回復し、人口移動が転入と転出で均衡する場合

	2010年		2040年	
	人数	対2010比	人数	対2010比
総人口	24,258	100	20,527	85
0-14歳人口	3,155	100	3,105	98
15-64歳人口	14,591	100	10,123	69
65歳以上人口	6,512	100	7,299	112
うち75歳以上人口	3,436	100	4,397	128
20-39歳女性人口	2,614	100	1,857	71
合計特殊出生率	1.44	1.50	1.80	2.10

参考文献:『地域人口減少白書』一般社団法人北海道総合研究調査会

2. 方向性

- 出生率の向上
- 転入と転出の均衡
- 富良野の“強み”を生かす

3. 目標

20,000人程度の人口を維持



**人口 20,000人の
「成熟した地域づくり」**

「成熟した地域」とは…一人ひとりが生きがいを持って活動し、
様々な世代の人々が互いを支え合い、
健康で心豊かに暮らすことのできる
持続可能で活力ある地域

1. 現状

Q. では、富良野市では
これまで人口減少対策について
何もやっていないのか？

1. 現状

人口減少対策に関するこれまでの取組み

【少子化対策に向けた取組み】

- 妊婦検診の助成
- 産婦人科医師の確保
- 乳幼児医療費の助成
- 小児救急医療の支援
- 認可保育所の保育料軽減
- 認可外保育所への補助拡充
- 学童保育や児童館の充実
- 子育て相談や子育て支援に関する交流の場の提供
- ファミリーサポートセンターの設置
- 支援が必要なお子さんへの療育サービスの充実
- 産科医療対策
- 小中学校の耐震化に向けた改築等教育環境の充実

【転入促進・転出抑制の取組み】

- お話し暮らし住宅の提供や首都圏・関西圏へのプロモーション等の移住・定住促進
- 新規就職希望者の確保に向けた担い手・後継者対策
- 新規開業やお店の改築・改装への補助や融資等、中小企業への支援
- 企業誘致活動や就職応援フェアの開催
- コンパクトシティに向けた中心市街地の活性化
- 公営住宅の改築や住宅リフォームへの補助
- 観光による交流人口の拡大

⇒ **強化する・再構築する**

2. 視点

強化と再構築が必要である一方で…

各部署にまたがる問題が多い

2. 視点

4つの“基本の柱”
9つの“プロジェクトチーム”
50の“ストーリー”

4つの“基本の柱”

3. 基本の柱

未来へ向けて～4つの『F』～

Fine ～元気な企業・人へ～

Family ～優しさ育む家族へ～

Favorite ～魅力あふれるマチへ～

Future ～誇り続ける**FURANO**へ～

4つの“基本の柱”

Fine 元気な企業・人へ

- ①雇用体制の充実・強化
- ②人材の育成・確保

Family 優しさ育む家族へ

- ①結婚・出産・子育ての継続した支援
- ②子育て環境の充実

Favorite

魅力あふれるマチへ

- ①滞在型、通年型観光の推進
- ②移住の推進
- ③起業化支援

Future

誇り続ける**FURANO**へ

- ①農業を中心とした“まちづくり”の推進
- ②市街地のコンパクト化及び集落のネットワーク化

9つの“プロジェクトチーム”

4つの“基本の柱”

Fine 元気な企業・人へ

- ①“ふるの膽”プロジェクト
- ②“ふるの人”プロジェクト

Family 優しさ育む家族へ

- ①“ふるのプレミアム”プロジェクト
- ②“子は地域の宝”プロジェクト

Favorite

魅力あふれるマチへ

- ①来たらイジヤナイカプロジェクト
- ②住んだらイジヤナイカプロジェクト
- ③失敗してもイジヤナイカプロジェクト

Future

誇り続ける**FURANO**へ

- ①ふるのアクリパークプロジェクト
- ②へその街のへそづくりプロジェクト

人口減少対策庁内中堅若手職員ワーキングチーム『戦略』			
戦略(2040年に向けて)			
<h1>50の“ストーリー”</h1>			
25			

人口減少対策庁内中堅若手職員ワーキングチーム『ビジョン』と『戦略』の全体像				
ビジョン(2040年を視野に)		戦略(2040年に向けて)		
中長期展望	基本の柱・PT	ターゲット	目標数値	主な論議(ストーリー)
<p>20,000人の“成徳した地域づくり”</p> <p>1. 課題 ① 地域社会の持続性・人口内閣研究によると、2025年度人口減少が顕著な地域が約70%と推定される。② 若手男女の減少による地域社会の持続性・人口減少の懸念。③ 若手男女の減少による地域社会の持続性・人口減少の懸念。</p> <p>2. 方向性 ① 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。② 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。③ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>④ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。⑤ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。⑥ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>⑦ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。⑧ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。⑨ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>⑩ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。⑪ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。⑫ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>⑬ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。⑭ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。⑮ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>⑯ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。⑰ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。⑱ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>⑲ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。⑳ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㉑ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>㉒ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㉓ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㉔ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>㉕ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㉖ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㉗ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>㉘ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㉙ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㉚ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>㉛ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㉜ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㉝ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>㉞ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㉟ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㊱ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>㊲ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㊳ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㊴ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>㊵ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㊶ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㊷ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>㊸ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㊹ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㊺ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>㊻ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㊼ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㊽ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p> <p>㊾ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。㊿ 若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p>	<p>Fine 元々企業へ 若手男女 20,000人増</p>	<p>Family 親しむ育む 若者男女 20,000人増</p>	<p>Favorite 魅力あふれる 若年女性 20,000人増</p>	<p>Future 誇り続ける 地域全体 20,000人増</p>
	<p>①雇用体制の充実・強化 ・事業者等の雇用情報のデータベース化 ・UIターン希望者に対する雇用情報の発信及び支援 ・産産物等の海外輸出支援</p> <p>②人材の育成・確保 ・大卒のインターンシップ(お祝い・就業 お祝い・雇用) ・UIターン奨学金制度(地元就職奨励)</p>	<p>①結婚・出産・子育てでの継続した支援 ・多子世帯支援(医療費・教育費の一部助成) ・ママのインターンシップ(お祝い・就業 お祝い・雇用)</p> <p>②子育て環境の充実 ・「体制強化」 ・地域内ファミリーサポート体制の構築 ・子育て物々交換市 ・「教育」 ・義務教育における独自プログラムの構築(余・家族・福祉などの授業) ・中高生における就業体験、インターンシップの体系的な取組の構築 ・「地域」 ・市内で遊べるスペースの確保</p>	<p>①若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ②若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ③若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ④若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑤若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑥若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑦若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑧若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑨若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑩若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑪若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑫若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑬若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑭若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑮若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑯若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑰若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑱若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑲若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ⑳若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉑若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉒若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉓若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉔若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉕若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉖若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉗若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉘若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉙若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉚若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉛若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉜若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉝若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉞若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㉟若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊱若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊲若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊳若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊴若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊵若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊶若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊷若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊸若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊹若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊺若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊻若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊼若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊽若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊾若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。 ㊿若手男女の減少を抑制し、人口減少抑制に貢献する。</p>	<p>①産業を中心とした「まちづくり」の推進 ・農業部、手の種別(後継者育成、新規就農者育成) ・遊休農地の活用(後継者育成、新規就農者育成)</p> <p>②市街地のコンパクト化及び集約のネットワーク化 ・空き家、空き地の活用(管理運営体制の確立) ・医療、交通、買物等のサポート体制の構築</p>
	<p>①潜在型、遠年型観光の推進 ・振興等在職の整備(ア(ト)等の活用) ・観光型(不労型等)の「おもてなし」体制の向上</p> <p>②移住の推進 ・移住者の確保(雇用・住居等)一括情報管理 ・ふるさと納税の活用によるファン層の拡大</p> <p>③起業化支援 ・女性や若者に対するチャレンジ資金や融資制度の構築</p>	<p>①結婚・出産・子育てでの継続した支援 ・記念日サポート事業(記念日(休日)) ・周年記念イベント等の富良野らしきイベントづくり</p> <p>②子育て環境の充実 ・「体制強化」 ・産前産後休暇や育児休暇を推進する事業者等への減免支援 ・「施設」 ・図書館、病院等の子育て世代が利用する施設の利便性の向上</p>	<p>①産業を中心とした「まちづくり」の推進 ・環境型農業の推進(RD付等の一環の活用) ・農林業の6次産業化の推進 ・農業のIT化支援 ・市民や観光客が楽しむ体験型農場の整備(フナアグリ(パーク)構想) ・農業サロン、園芸療法等の推進 ・トリプルアグリケーションの作成(観光、災害等に活用)</p> <p>②市街地のコンパクト化及び集約のネットワーク化 ・市職員で構成する地域活性化プロジェクトチームの設置(山部、栗山、麓澤等) ・農村コミュニティによるチャレンジ体制の構築</p>	

人口減少対策庁内中堅若手職員ワーキングチーム『戦略』			
戦略(2040年に向けて)			
基本の柱・PT	ターゲット	目標数値	主な論議(ストーリー)
<p>Fine 元々企業へ 若手男女 20,000人増</p>	<p>若者男女 20,000人増</p>	<p>※2040年 推計値A 2,950人 回復値B 3,710人 差引値A 760人</p>	<p>【2020年までに実施】</p> <p>①雇用体制の充実・強化 ・事業者等の雇用情報のデータベース化 ・UIターン希望者に対する雇用情報の発信及び支援 ・産産物等の海外輸出支援</p> <p>②人材の育成・確保 ・大卒のインターンシップ(お祝い・就業 お祝い・雇用) ・UIターン奨学金制度(地元就職奨励)</p> <p>【2040年を視野に実施】</p> <p>①雇用体制の充実・強化 ・「お祝い・手続」 ・事業者による企業経営資源の引継ぎ支援 ・産産物等による持続的経営体制の確保 ・企業奨励金 ・農業や環境に関連した企業の誘致 ・農業や環境に関連した研究機関の誘致 ・「お祝い・手続」による新卒者支援</p> <p>②人材の育成・確保 ・行政、大学、企業等の連携による人材育成 ・事業所等による地元出身者採用による特別支援</p>

人口減少対策庁内中堅若手職員ワーキングチーム『戦略』			
戦略(2040年に向けて)			
基本の柱・PT	ターゲット	目標数値	主な論議(ストーリー)
<p>Family 親しむ育む 若者男女 20,000人増</p>	<p>若者男女 20,000人増</p>	<p>※2040年 推計値A 1,478人 回復値B 1,857人 差引値A 379人</p>	<p>【2020年までに実施】</p> <p>①結婚・出産・子育てでの継続した支援 ・多子世帯支援(医療費・教育費の一部助成) ・ママのインターンシップ(お祝い・就業 お祝い・雇用)</p> <p>②子育て環境の充実 ・「体制強化」 ・地域内ファミリーサポート体制の構築 ・子育て物々交換市 ・「教育」 ・義務教育における独自プログラムの構築(余・家族・福祉などの授業) ・中高生における就業体験、インターンシップの体系的な取組の構築 ・「地域」 ・市内で遊べるスペースの確保</p> <p>【2040年を視野に実施】</p> <p>①結婚・出産・子育てでの継続した支援 ・記念日サポート事業(記念日(休日)) ・周年記念イベント等の富良野らしきイベントづくり</p> <p>②子育て環境の充実 ・「体制強化」 ・産前産後休暇や育児休暇を推進する事業者等への減免支援 ・「施設」 ・図書館、病院等の子育て世代が利用する施設の利便性の向上</p>

人口減少対策庁内中堅若手職員ワーキングチーム『戦略』			
戦略(2040年に向けて)			
基本の柱・PT	ターゲット	目標数値	主な論議(ストーリー)
<p>Favorite 魅力あふれる 若年女性 20,000人増</p>	<p>若年女性 20,000人増</p>	<p>20,000人増</p>	<p>【2020年までに実施】</p> <p>①潜在型、遠年型観光の推進 ・振興等在職の整備(ア(ト)等の活用) ・観光型(不労型等)の「おもてなし」体制の向上</p> <p>②移住の推進 ・移住者の確保(雇用・住居等)一括情報管理 ・ふるさと納税の活用によるファン層の拡大</p> <p>③起業化支援 ・女性や若者に対するチャレンジ資金や融資制度の構築</p> <p>【2040年を視野に実施】</p> <p>①潜在型、遠年型観光の推進 ・フナアグリ(パーク)の開設(農業コンセプトにしたテーマパーク) ・農家の宿プロジェクトによる料理人、メニュー、イベント等の育成 ・高齢者を巻き込んだイベントの開催 ・女性をターゲットとしたイベントの継続開催</p> <p>②移住の推進 ・観光や介護等の人材不足を補う人材派遣施設(観光) ・金融機関との連携による定住住宅ローンの創設</p>

人口減少対策庁内中堅若手職員ワーキングチーム『戦略』			
戦略(2040年に向けて)			
基本の柱・PT	ターゲット	目標数値	主な論議(ストーリー)
<p>Future 誇り続ける 地域全体 20,000人増</p>	<p>地域全体 20,000人増</p>	<p>20,000人増</p>	<p>【2020年までに実施】</p> <p>①産業を中心とした「まちづくり」の推進 ・農業部、手の種別(後継者育成、新規就農者育成) ・遊休農地の活用(後継者育成、新規就農者育成)</p> <p>②市街地のコンパクト化及び集約のネットワーク化 ・空き家、空き地の活用(管理運営体制の確立) ・医療、交通、買物等のサポート体制の構築</p> <p>【2040年を視野に実施】</p> <p>①産業を中心とした「まちづくり」の推進 ・環境型農業の推進(RD付等の一環の活用) ・農林業の6次産業化の推進 ・農業のIT化支援 ・市民や観光客が楽しむ体験型農場の整備(フナアグリ(パーク)構想) ・農業サロン、園芸療法等の推進 ・トリプルアグリケーションの作成(観光、災害等に活用)</p> <p>②市街地のコンパクト化及び集約のネットワーク化 ・市職員で構成する地域活性化プロジェクトチームの設置(山部、栗山、麓澤等) ・農村コミュニティによるチャレンジ体制の構築</p>

成熟 食 田園 自然

Re FURANO

ipe nergy ood nique ural rt ature outdoor
ライブ エネルギー フード ユニーク ルーラル アート ネイチャー アウトドア

エネルギー ヘソ 芸術 アウトドア

Recycle フラワーユニバーサル Agriculture
リサイクル フラワーユニバーサル アグリカルチャー

再生 花 普遍性 農

employ フォレスト Nevel
雇用 森 ネーベル

ヘソ

成熟 食 田園 自然

Re FURANO

ipe nergy ood nique ural rt ature outdoor
ライブ エネルギー フード ユニーク ルーラル アート ネイチャー アウトドア

エネルギー ヘソ 芸術 アウトドア

Recycle フラワーユニバーサル Agriculture
リサイクル フラワーユニバーサル アグリカルチャー

再生 花 普遍性 農

employ フォレスト Nevel
雇用 森 ネーベル

ヘソ

Re FURANO

4つの“基本の柱”

9つの“プロジェクトチーム”

50の“ストーリー”

【メンバー】

No	所属	氏名	備考
1	総務部企画振興課広報係	志賀 光	
2	総務部総務課職員係	志村 和博	
3	総務部税務課納税係	奥田 俊二	
4	総務部市民環境課環境係	加門 賢裕	
5	保健福祉部福祉支援課介護保険係	菊地 雅	
6	保健福祉部こども未来課東山保育所	野村 国広	
7	経済部商工観光課観光物産係	松木 政治	
8	教育委員会学校教育課管理係	多田 勝吾	
9	総務部企画振興課企画振興係	入交 俊之	事務局
10	総務部企画振興課企画振興係	石坂 征和	事務局

【確認事項】

目的	『人口減少対策』の検討
検討項目	【まち・ひと・しごと総合戦略】 ① 地方への新しいひとの流れをつくる ② 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る ⑤ 地域と地域を連携する
検討視点	① 中堅若手職員が、定年退職後の高齢社会では、どのような地域社会を望むか？ ② 少子化対策として、若者が結婚し、子どもを産み、育てやすい環境とは？ ③ 転入促進、転出抑制のために、若年世代を惹きつける魅力あるまちとは？
目 標	『人口減少対策』に係る“基本的な考え方”と“具体的な方策”の策定

【議論経過】

会議名	月 日	内 容
第1回WT	12月9日	富良野市の現状と課題の洗い出し
第2回WT	1月 8日	現状・課題等の分析・検証について
第3回WT	1月26日	分析・検証に基づく施策案について
第4回WT	2月 4日	政策目標等の設定について
第5回WT	2月13日	ビジョン及び戦略(全体像)について
第6回WT	2月26日	ビジョン及び戦略(全体像)について
意見交換会	3月 4日	富良野青年会議所との意見交換会
第7回WT	3月11日	ビジョン及び戦略(全体像)について
第8回WT	3月19日	意見提言書の取りまとめについて

4. 富良野市総合戦略有識者会議 設置条例・委員名簿

富良野市総合戦略有識者会議設置条例

(設置)

第1条 まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第10条第1項に規定する市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、実施状況及び効果の検証を行うため富良野市総合戦略有識者会議(以下「有識者会議」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 有識者会議は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)の策定に関すること。
- (2) 総合戦略の実施状況及び効果の検証に関すること。

(組織)

第3条 有識者会議は、会長及び委員20人以内をもって組織する。

- 2 会長は、市長をもって充てる。
- 3 会長に事故あるときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。
- 4 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。
 - (1) 市民(公募による。)
 - (2) 市内の各種団体を代表する者
 - (3) 学識経験者
 - (4) 市長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、5年とする。ただし、再任は妨げない。

- 2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 有識者会議は、会長が招集し、その議長となり会務を総理する。

- 2 有識者会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第6条 有識者会議は、任務の遂行に必要と認められるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 有識者会議の庶務は、総務部企画振興課において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、有識者会議の運営に関し必要な事項は、会長が有識者会議に諮って定める。

附 則

この条例は、平成27年6月26日から施行する。

富良野市総合戦略有識者会議委員名簿

任期：平成27年9月1日～平成32年8月31日

	団 体 名	役 職	氏 名
1	富良野商工会議所	会頭	荒 木 毅
2	ふらの観光協会	会長	松 井 敬 二
3	ふらの農業協同組合	常務理事	菊 地 邦 之
4	北海道上川総合振興局	戦略策定支援担当部長	清水目 剛
5	北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所	地域研究部長	松 村 博 文
6	富良野市	市長	能 登 芳 昭
7	東京大学北海道演習林	林長	鎌 田 直 人
8	富良野市校長会	会長	田 村 啓 一
9	北洋銀行富良野支店	支店長	三 瀬 博 之
10	北海道銀行富良野支店	支店長	千 谷 伸 之
11	旭川信用金庫富良野支店	支店長	南 條 泰 一
12	富良野地区連合会	事務局長	太 田 圭 一
13	富良野市連合町内会協議会	副会長	原 田 武
14	富良野中央婦人会	会長	小 川 綾 子
15	一般市民		飯 沼 巖
16	一般市民		西 本 伸 顕
17	一般市民		藤 田 均